

科目名	教育学特別研究～「家族」の理解と支援	担当教員	堀越由紀子
科目属性	関連科目	単位数	2単位（面接 単位）
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>【授業概要】</p> <p>教育、福祉、医療などの実践現場でしごとをしていると、当の本人ばかりではなく、その「家族」へのアプローチが必要になることがある。ときには、主人公である本人よりも、家族への対応にウェイトを置くことになったりもする。しかし、家族の誰に、いつ、どうやって、どのくらいかかわっていけばいいのかとなると、なかなか難しい。そもそも家族の様相はさまざまで、一人として同じ人がいないように、一つとして同じ家族はないし、現代社会においてはさらにその多様性が増している。文字どおりケース・バイ・ケースなのである。</p> <p>そこで、家族を理解し、かかわりかたを考えるためにできることは、具体的な事象に目を向け、そこに「家族」について普遍化できる特徴を見つけることである。「家族は、人間が帰属する最初の、そして例外はあっても最強のシステムである」と言ったのは、アメリカのソーシャルワーカーで家族療法家でもあるマクゴールドリック (McGoldrick, M.) だが、家族は身体的、心理的、物理的、社会的に相互に依存し、影響を与え合いながら存在している。そのなかで、本人と家族に起きていることの位置づけが明確になり、今後どうなればよさそうか構造的な仮説をもつことができれば、これが家族にかかわる際の手がかりとなる。</p> <p>この授業では、教師、ソーシャルワーカー、看護職や介護職といった専門職の家族へのかかわりについて検討するとともに、家族療法として発展してきた家族ソーシャルワークの理論をもとに、家族をシステミックにとらえ、また関わっていくための知識やスキルを実践的に学修する。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <p>専門職たちが「家族」に接する際には、おおよそ次のようなバリエーションがあると考えられる。すなわち、①通常の上ごとのなかで家族に接することがある、②本人へのかかわりの延長上で、必要があるときに家族と話している、③家族のストレスや家族発達等の知識をもとに、家族をサポートしている、④家族をシステミックに理解し、家族についての系統的な見立てを行い、それに基づく介入（支援）を考えている、⑤家族についてのシステミックな理解にもとづいて、家族における「もんだい」（機能障害）を解消の方向に導くためのかかわり（介入・支援）をしている、といった5つの段階である。</p> <p>このうち、少なくとも④の段階に到達し、自身の日常の実践において家族に接する際に、本人を含む家族全体をシステミックに理解し、系統的な見立てを行なって、どのようにかかわっていけばよいか計画をたてることができるようになることが、本授業の到達目標である。</p> <p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1回目～3回目 自身の実践において本人（当事者）と家族に起きていることを念頭におきながら、自身と家族とのかかわりを振り返りてみる。 テキストの第2章第1節「家族療法の理論」、同第2節「家族理解の視点」を通読し、1本目のレポートを作成、提出する。 ■ 4回目～7回目（スクーリング） 1回目のスクーリングでは、上記で作成した1本目のレポート内容についてクラスで共有するとともに、家族支援の理論について、テキスト第1章・第2章に加えて、第3章の内容についても事例を多用しながら解説する。そして、自身の実践内容と照合しながら理解を深める。 ■ 8回目・9回目 スクーリングまでの学修を深化させるために、テキストに加えて参考図書等を通読し、理論枠組みについての理解を深める。 ■ 10回目～13回目（スクーリング） 2回目のスクーリングでは、テキスト第1章～第3章ならびに必要な応じて第2部の内容も参照しながら、自身の実践における経験例について、他の受講生とともに「検討」し、到達目標の④、すなわち「家族をシステミックに理解し、家族についての系統的な見立てを行い、それに基づく介入（支援）を考える」ことができるようになることを目指す。事例の検討においては、レポート課題やスクーリングを通して得た知識、あるいはさらなる学習で獲得した知識を用いて実践と理論の往還を行う。 ■ 14回目・15回目 			

授業の過程全体を振り返り、自身の実践における家族とかかわりにおいて求められる知識やスキルを確認するとともに、専門職としての自身の強みを確かめながら科目修得試験（レポート）提出に向けて準備をする。

【評価方法】

レポートの内容 25%、スクーリング 45%、科目修得試験 35%

*評価については、学修目標の項目と到達レベルをマトリクス形式で示した評価指標を用いて行う。

【教科書】

日本家族研究・家族療法学会編（2017）『家族療法テキストブック第3刷』金剛出版
ISBN-13:978-4772413176

【参考図書】

- モニカ・マクゴールドリック他（著）・渋沢田鶴子（監訳）（2018）『ジェノグラム～家族のアセスメントと介入』金剛出版（=McGoldrick,M.et.al.（2008）*Genograms:Assessment and Intervention 3rd ed.* W.W.Norton & Company.）
- McGoldrick,M(2016）*The Genogram Casebook: A Clinical Companion to Genogramusu : Assessment and Intervention.* W.W.Norton & Company.
- パターソン他（著）・遊佐康一郎（監訳）（2013）『家族面接・家族療法のエッセンシャルスキル～初回面接から終結まで』星和書店
- ソバーン,J.W.& セクストン,T.L.（著）・若島孔文ら（監訳）（2019）『家族心理学：理論・研究・実践』遠見書房
- カー,M.E & ボーエン,M（著）・藤縄昭・福山和女（監訳）（2001）『家族評価～ボーエンによる家族探究の旅』金剛出版
- ヘプワース,D.H.& ラーセン,D.他（著）・武田信子（監訳）（2015）『ダイレクト・ソーシャルワークハンドブック～対人支援の理論と技術』第10章・第15章, 明石書店
- マクダニエル,S.H.他（著）・渡辺俊之（監訳）（2016）『メディカルファミリーセラピー：患者・家族・医療チームをつなぐ統合的ケア』金剛出版
- 近藤直司（2017）『青年のひきこもり・その後～包括的アセスメントと支援の方法論』岩崎学術出版
- リー,R.E.& エベレット,C.A.（著）・福山和女他（監訳）（2004）『家族療法のスーパービジョン：統合的モデル』金剛出版